

30歳から始めるドリフト 修練塾

目指すは三十路の星!

出席番号1

坂東マサ

相変わらず問題児の坂東マサ。最初に復習としてパイロンなしでアクセルターンさせたんだけど、コレはしっかりできた。でも、やはり大きな円になるとダメ。1周はなんとかできたんだけど、ミスの修正がまだできない。でも、イイところもあったぞ。スタート時のステアリングを切る量が小さく、そして直後のカウンター量も小さいんだ。それを何周も続けられれば完璧なんだけどな……。

メリハリがありすぎるのも問題 細かいコトができないタイプ?



▲いつものことだけど、オン/オフのスイッチ的に操作することがあるぞ。だからスピンも多いし、長く続けられないってワケ。



▲フロントタイヤがリヤよりグリップしないのは論外。スタート直後からアンダーが出ておくと、必ず替えておくように!



photo—岡拓 report—佐藤圭
撮影協力—相模湖ビクニックランド

今月の課題

定常円旋回 (パイロン2本)



前回はパイロンを1本置いて円旋回。今回はそのパイロンを2本に増やしてみたぞ。こう書くと「前と同じじゃん!」な〜って思うかもしれないけど、予想外の落とし穴が……!



おいっす! 今月からは鬼教官を目指そうと思ってる村尾だ。4回目の課題は、「パイロンを2本にして、その間隔を徐々に広げて大きな円を描いてみよう!」ってこと。しかし、たったそれだけのことがこの企画が始まって以来の難問となってしまうようだ。マサはしようがないとしても、ここまで順調な成長を見せていた竹ちゃんまで……どうしたの!?

最初はパイロンの間隔を10歩くらいに設定してみた。注意したいのはパイロンが1本のときと同じく、このカウンター量だと円は小さくなってしまふこと。だから、カウンター量を少し抑える必要があるんだ。それには「今とだけリヤが出てくるか」とか、「それに対してどの程度カウンターを当てるのか」を体で覚える必要があるわけだ。

ドリフトを開始するときにステアリングを切る量も同じじゃダメ。大きく切りすぎると一気にリヤが流れるので、必然的にカウンター量も多くなる。だから、ステアリングはあまり切らないこと。コレが重要!

カウンターを当てるタイミングも今までより早くなる。「カウンターの量は少なく、タイミングは早く」。この2つのポイントをよく頭にたたき込んでおくように!

円の直径が大きくなり、カウンターは少なく、アクセルを踏む量は今までと同じとすれば、クルマのスピードはどう変わっていると思う?

そう、確実に速くなっているんだよ。以前よりも高い速度でドリフトできるのは上達した証拠なんだけど、それだけに周囲への注意も必要になるぞ。「どんだん円の位置がズレてきて、気がついたらガードレールが目の前に!」なんてのはシャレにならない。失敗したと思ったら、すぐブレーキを踏んで停止しよう。くれぐれも無理は禁物だ。

と、言葉にすると難しくもないんだけど、ナゼか生徒2人はスムーズにできない。共通して見えるのは、パイロンを意識しすぎてことかな? そのせいでドライビングに集中できず、ステアリングとアクセルのタイミングがだんだん合わなくなってしまうんだ。う〜ん、克服するにはたくさん走り込むしかないのかな?

というワケで、今回は2人仲良く落第が決定。おいおい、教習所であったらまだ第一段階だぞ! こんなところではまずいってたら、コースに出る日はいつになることやら……。まあ、2人の欠点はわかったし、恐らくこれがいままでできない人はみんな同じ理由だと思おう。

こうなったら、次回の予定はもう変更だ! 「オレも同じように失敗する」なんてキミ、次号を読んでもらえれば必ずできるようにアドバイスするから、タイヤを用意して待っていてくれ!

出席番号2 竹ちゃん

小さなミスが積み重なって……ステアリング操作も雑だった!?

今までは優等生だった竹ちゃんだけど、今回はちょっと伸び悩み。リヤの振り出しが唐突だったこともあり、カウンターを多く当てているんだ。1周くらいなら問題ないんだけど、だんだん円が小さくなってしまつて最後には止まってしまう。ステアリング操作も雑なのかもね。だったら「停止状態からスタートせず、パイロンのまわりを普通に走りながらリヤを出す」というのがいいかも。次回はこの方法で特訓させてみるぞ!



▲ボディ剛性が高められており、タイヤがやけに食うのも原因のひとつ。上手な人ならともかく、ビギナーには厳しいかも。



▲焦れば焦るほどスムーズなステアリングワークからかけ離れていく。そのせいで、小さなミスが次第に大きくなるんだ。



CHECK! タイヤをいたわる走り方って?



▲前も説明したけど、ドリフトの練習は適度に休憩することも大事! あまり連続で走り続けると、タイヤも消耗してしまう。まだ山は残っているのにもうパースト寸前だ。貴重なタイヤは最後までおいしく使うべし。



いったいどうなって
しまうのか!?

予定では、次回のテーマは「8の字」だった。しかし、今回の課題をクリアしていないのに先へ進めるワケがない。ということで、次こそは「パイロン2本の定常円旋回」を完璧にマスターさせるぞ！それができたら、8の字にも挑戦させようかな。マサも竹ちゃんも時間を作ってコツ練したり、オイラが教えたクルマの欠点を直してくるように。今回の遅れを取り戻すべくピシシと指導するぜ！

「先生とイチバン違う点？ うーん、やはりタイミングかな。運転はそれがすべてといってもいいくらいだもんね。あとはリカバリーのうまさがあったら違う。ま、きっけはわかったから次はできるんじゃないかな？そこさえ直せば差はないよ。人氣はオレのほうが上だし！」



坂東マサ

「ムダな動作がなく、しかもムラもない。それが最大の強だろうね。ミスがないからいつまでも続けられる。オレはすべての操作がオーバーアクションだし、タイミングも！テンポ遅いような気がするな〜。手と足がうまくシンクロしていないっていうのかな、そんな感覚だね。」

CHECK!

パイロンの間隔を
徐々に広ぐ!

●ビギナーがいきなり大きな円でドリフトするのは、正直いって無理。まずはパイロン2本の間隔をクルマ1台分くらいに設定しよう。それができたらどんどんパイロンを離していき、20歩くらいの間隔でもキレイに回れるようになれば合格だ！

最後はコレくらいを目標に



最初はクルマ1台分が目安



小さな円

大きな円



CHECK!

ステアリングを
切りすぎない!

●パイロンが1本の場合と2本の場合とでは、最初にステアリングを切る角度がこんなに違う。切る角度が多いほどカウンター量が多くなり、円は小さくなってしまふぞ。練習するときはこの写真を参考に。



「なぜできないんだろう？」と相談する坂東マサと竹ちゃん。チンゴ先生の機軸走行を見ながら運転の遅い気づくもの、なかなか実践はできないようだ。体が勝手に反応するようになるまで、ひたすら走り込みあるのみ？

↓チンゴ先生とナニが違う?

次は8の字の
予定だったが
この様子じゃとでも……
うーん、困ったぞ!?



竹ちゃん



パイロンが2本に増えたら四苦八苦! やってるコトは同じなのに……なぜ?

居残り決定!

すみません……

前はできたのに……

